特集 子どもたちが安心できるまちへ

地域で見守る「目」

子どもたちが巻き込まれる
痛ましい事故や事件が、
毎日のように報じられています。
このようなニュースは
他人事ではありません。
「うちは気を付けているから大丈夫」
といった油断は禁物です。
子どもが犯罪に巻き込まれるのを
未然に防ぐために、
わたしたちは何ができるのでしょうか。
今回の特集では、子どもたちが
安心して笑顔で暮らせるまちを目指すために、
犯罪の現状について理解して家庭や地域、
そしてわたしたちにできることについて考えます。
詳しいことは、地域安心課（89局２１４９番）へ、
お問い合わせください。

子どもたちが狙われています

子どもたちが犯罪に巻き込まれる悲惨な事件が後を絶たず、
地域での防犯が課題となっています。
子どもたちの周りで起こっている犯罪について理解しましょう。

子どもたちの身近に潜む危険

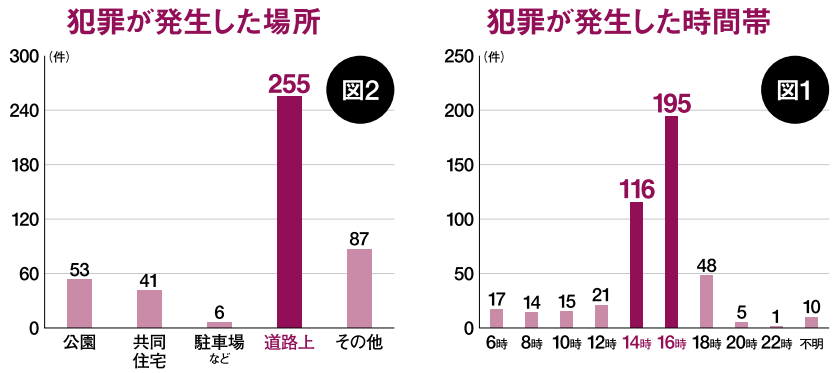
昨年県内では、十三歳未満の子どもにつきまとったり、わいせつな目的で声を掛けたりした事件は、警察に報告されているものだけで約五百件にのぼりました。報告された内容の中には、「からかわれたような言葉を掛けられた」「下校途中に付きまとわれて気持ち悪い思いをした」など、犯罪としては立証するのが難しく事件として該当しないものも多くみられます。しかし、このような「声掛け」が命に関わる重大な犯罪につながる恐れを持っています。

子どもへの声掛けの方法はさまざまです。「飼い犬を探してほしい」「家族が倒れたから一緒に病院へ行こう」など子どもが惑わされやすい言葉を使って、不審者は近づいてきます。また、暴行やわいせつ行為などは「親に言ったらもっとひどい目に遭わせる」など、子どもの口を封じるケースもあります。被害を受けた子どもの心のケアも問題視されてきています。

下校中の子どもたちが路上で狙われやすい

市内でも不審者による声掛け、痴漢、暴行などの通報が多数あります。そして、その被害者の多くが小学生以下の子どもたちです。

愛知県警察本部の調べでは、被害の時間帯は夕方が多く、一人で下校している途中の子どもが路上で狙われるケースが多くなっています。また、公園のトイレや共同住宅の階段などの人目につきにくい場所も被害が目立ちます。（図1・2）



愛知県警察本部調べ（平成23年）

不審者の情報を発信中!!

●市ホームページに最新の不審者情報を掲載中

市では、子どもに関連する事件、事故を予防するために、保育園、幼稚園、小学校、中学校、からの情報を元に警察署の協力を得て「不審者等情報」を作成し、市ホームページに掲載しています。（http://www.city.toyokawa.lg.jp/safe/husinnsya.html）

●携帯電話向け メールマガジン「パトネットあいち」

不審者に関する情報や、身近で発生する犯罪に関する情報などを登録者にメールで配信しています。登録方法はメールアドレス（m.patnet@cep.jp）にアクセスし、空メールを送信してください。また、QRコードからもアクセスできます。

子どもの防犯能力を高める取り組み

市内の学校では、子どもを危険から守るために集団登下校の促進などを行っています。学校から一歩外に出ると子どもたちに目が行き届きにくくなるため、学校とボランティアが協力し合って見守り活動を行っています。

また、定期的な防犯講座の開催や、校区の安全マップの作成などを行っている学校もあります。子どもは不審者を判断しにくいため、「起こりやすい場所」に着目するなど工夫をして子どもが自分の身を守るように教育し、防犯について考える機会を作っています。

日ごろから家庭で教えましょう

本当に怖い目に遭うと、子どもは足がすくんで動けなかったり、声が出なかったりします。日ごろから家庭で自分で自分の身を守ることを、繰り返し教えましょう。

小学校で開かれる防犯講座の様子

守る力を育てる

子どもが自分の身を守るためには、まず防犯について理解し、実践できるように大人が教えることがたいせつです。
学校での防犯教育の取り組みや、家庭での教育を紹介します。

小学校に支給している防犯ブザー

●安全な距離を教える

突然、腕をつかまれたり、触られたりする危険があります。どんな人から声を掛けられても近づかず、一定の距離を保つように教えましょう。

●子ども110番の家を確認

いざという時に逃げられるように普段から子どもの通学路にある「子ども110番の家」を確認させましょう。

●防犯ブザーの確認

「防犯ブザー」には大きな音で不審者を威嚇する効果と、子どもの危険を周りに知らせる効果があります。きちんと音が出るか確認し、子どもがすぐに使える位置に付けさせましょう。

●危険を感じたら「つみきおに」

子どもの安全を守る合言葉「つみきおに」を徹底させ、「大声を出すこと」「逃げること」を訓練させましょう。

つ いていかない
知らない人に声を掛けられても付いて行かない。

み んな一緒
一人で遊んだり、どこかへ行ったりしない。みんなと、いつも一緒にいよう。

き ちんと知らせる
出掛けるときや何かあったときはきちんと知らせる。

お おきな声で
知らない人に連れて行かれそうになったら大声で助けを呼ぶ。

に げる
怖いと思ったら、すぐに逃げる。

Interview

防犯について親子で考える機会を

愛知県豊川警察署
生活安全課
見郷 直哉さん

残念ながら、日々のニュースで子どもが被害を受ける事件の報道が多く見られます。

保護者の方はお子さんにわかりやすく事件の内容を説明した上で、「もし、事件に巻き込まれたらどうするの？」などの投げ掛けをしてあげてください。日ごろから、親子で話し合う機会を持つことで防犯教育を行うことができます。

皆さんに理解していただきたいことは「自分の子どもも被害者になるかもしれない」ということです。少しの心掛けで犯罪被害から身を守ることができます。どうしたら被害に遭わないか、日ごろから親子で防犯について考える機会を持つことがたいせつです。

地域で協力する

不審者による子どもへの声掛けが最も多く発生しているのは、学校や家庭の目が届きにくい下校中です。地域の大人たちの目で子どもたちを見守ることが必要です。

防犯パトロールを行う青色回転灯積載車

防犯には地域の見守る「目」が不可欠

犯罪者は人の「目」を恐れます。そのため、子どもたちを犯罪から守るのは、やはり地域の大人たちの見守る「目」です。市では、子どもたちの下校の時間中にも防犯パトロールを行い、犯罪の抑制を図っています。

また、市や警察と協力してその地域の人々が防犯の取り組みを行うことで、地域の犯罪抑止力は高まります。登下校中の子どもたちを見守ることができるのはその地域に住む人々です。日ごろから子どもたちに声を掛けたりあいさつをして顔の見える地域をつくることで、不審な人物や車など異変に気付くことができます。

なお、通学路や公園などの木が生い茂っていると、子どもたちに目が届きにくいため、地域の環境を整備することも必要です。

地域で活躍する防犯ボランティア団体

市内には、小学校区ごとに三十四の防犯ボランティア団体があります。防犯ボランティア団体はそれぞれの地域で下校中の小学生の見守りや、青色回転灯積載車を利用してパトロールなどを行っています。こうした地道な活動が犯罪の未然防止につながり、地域の安全を守っています。

Interview

子どもたちを見守り地域で育てます

豊小学校を育てる会
防犯パトロール隊
森島 健夫さん

全国で子どもが巻き込まれる犯罪や痛ましい事件が多くなり、豊小学校を育てる会では、「子どもを守るために何かできることはないか」と考え、平成十七年に防犯パトロール隊を結成しました。

結成してから七年、豊小学校区では子どもの事故や犯罪が一度も起こっていません。しかし、活動内容は大げさなことではありません。雨の日も雪の日も見守って、子どもたちにあいさつをする。純粋に子どもたちに安心して欲しいという気持ちから日々活動しています。

豊小学校区の東側は工場などが多く人通りも少なく心配なため、二手に分かれて家の近くまで付いて行くようにしています。

また、子どもたちから「近くに変な人がいた」と言われることもあり、その場合は警察に情報を伝え、自分たちもパトロールを強化して気を付けるようにしています。

わたしたちは「できる人ができる範囲で」をモットーに自主的に活動しています。例えば、子どもが下校するときに玄関先に立って、子どもにあいさつするだけでもいい。ちょっとでも気持ちがあって、立ってくれる人を増やしていきたいと思っています。一人でも多くの人に子どもを見守ってもらいたいです。

子どもたちの笑顔を見守る

家庭・学校・地域の連携がたいせつ

学校や家庭で行う防犯教育と、地域のボランティア団体が行う防犯活動、それぞれの取り組みが広がっています。また、定期的に防犯ボランティア団体が集まり、警察や行政と取り組みについての情報共有が行われています。これからは、取り組み情報などを共有することで、防犯力をさらに高める必要があります。

犯罪被害につながる恐れのある不審者情報を的確に把握した上で、家庭をはじめ、学校、そして地域住民などが一体となり、犯罪者や不審者を寄せ付けない環境・地域を目指していく必要があります。

見守る「目」は多いほどよい

犯罪のない地域を目指すために、わたしたちにできることは何でしょうか。

例えば、地域で行われている防犯活動などに参加してみるのも良いでしょう。防犯の意識は参加することや情報を得ることで、さらに高まります。

時間の制約などで活動に参加できない人も、買い物や庭の掃除、犬の散歩に出掛ける時など、外に出る時間を子どもの登下校に合わせることで子どもを見守る「目」になることができます。犯罪者は人に見られることを最も恐れます。子どもを見守る「目」は多いほど良いのです。

防犯は、警察や一部の人だけが行うものではありません。一人一人が意識を持って、ちょっとしたことでも、まずは行動してみましょう。その行動が広がり、人と人とのつながりを築いて「顔の見える地域」をつくります。

「顔の見える地域」は犯罪を寄せ付けず、子どもたちが笑顔で安心して暮らせるまちづくりにつながると考えます。